

臨床福祉学課題研究

[研究] 2年 通年 選択 180時間 6単位

《担当者名》志水 幸 [koh@hoku-iryo-u.ac.jp]
 白石 淳 [jun-jun@hoku-iryo-u.ac.jp]
 橋本菊次郎 [hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp]
 巻 康弘 [maki@hoku-iryo-u.ac.jp]
 福間麻紀 [m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

臨床福祉学課題研究では、臨床福祉学に貢献し得る新たな知見の産出に資する研究能力の修得に資する研究指導を行う。

【学修目標】

臨床福祉学課題研究の到達目標は、修士論文を作成する過程全般をつうじて、当該分野における高度な研究能力を修得し、自ら構想した課題に対して適用することができることである。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-------------|---|-------|
| | < 社会福祉学原理 > | <p>【概要】 社会福祉学原理特論、社会福祉学原理演習等をつうじて修得した知見を踏まえ、社会福祉学原理領域に関連する修士論文を作成する。前半では、研究課題と研究デザインについて検討し研究計画書を作成する。後半では研究内容に関する精査・評価等を行い、論文作成のための具体的な指導を行う。以下は論文作成までの流れである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の設定 2. 先行研究のレビューと学習・評価 3. 研究計画書の作成 4. データの収集(介入・調査) 5. データの整理と分析 6. 論文の作成 | 志水 |
| | < 障害福祉学 > | <p>【概要】 障害福祉学特論・演習での学習、さらには臨床福祉学実習の成果をふまえ精神保健福祉分野の特に当事者論に関連する修士論文を作成する。前半は論文作成に関する一般的な手法を紹介し、具体的な課題の吟味と情報収集を行う。後半は個別の課題に関する調査・評価等を行い、論文作成のための具体的な指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 先行研究の検索と学習・評価 3. 研究計画書の作成 4. データの収集・調査・整理分析 5. 論文作成 | 橋本 |
| | < 高齢者福祉学 > | <p>【概要】 「高齢者福祉学特論」および「高齢者福祉学演習」での学習・研究の成果や履修生の問題関心を踏まえて研究課題を明確化する。その課題をもとに論文作成のための具体的な指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 先行研究のレビュー 3. 研究計画書の作成 4. データ収集(調査) 5. データの整理と分析 6. 論文作成 | 巻 |
| | < 教育福祉学 > | <p>【概要】 教育福祉特論、教育福祉演習等で学修した内容を踏まえ、教育福祉学領域に関わる修士論文を作成する。前半は、自己の研究課題を明確化し、先行研究を検討しながら、研究方法を定める。後半は、研究課題につ</p> | 白石・福間 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-----|--|-----|
| | | いでの調査、整理、分析等を行いながら、修士論文の作成のための具体的な指導を行う。 1. 研究課題の設定 2. 先行研究の検索、学習・評価 3. 研究計画書の作成 4. データの取集・整理・分析 5. 論文の作成 | |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

< 社会福祉学原理 > 志水担当分
修士論文（100%）による評価

< 障害福祉学 > 橋本担当分
修士論文（100%）による評価

< 高齢者福祉学 > 大友担当分
修士論文100%

< 教育福祉学 > 白石担当分
修士論文（100%）による評価

【教科書】

< 社会福祉学原理 > 志水担当分 適宜紹介する
< 障害福祉学 > 橋本担当分 適宜紹介する
< 高齢者福祉学 > 巻担当分 適宜紹介する
< 教育福祉学 > 白石・福間担当分 適宜紹介する

【参考書】

< 社会福祉学原理 > 志水担当分 適宜紹介する
< 障害福祉学 > 橋本担当分 適宜紹介する
< 高齢者福祉学 > 巻担当分 適宜紹介する
< 教育福祉学 > 白石・福間担当分 適宜紹介する

【学修の準備】

当該分野における最新の研究動向を踏まえ、関連する文献等に対する分析的な理解が必須である。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。